

[曲 名] Il Canto delle Sirene

シレーナの唄

[曲 種] mazurka

マズルカ

[作曲者] Vincenzo Billi

ヴィンツェンツォ・ビルリ

[編曲者]

作者は1869年4月4日イタリア・ラヴェンナのブリジゲーラ（ボローニアの東アドリア海側）に生まれ、1938年12月20日フィレンツェに逝いた指揮者で作曲家。

父ジュゼッペ（ウルバニア並びにペザロ音楽学校の指揮者で、1903年亡くなった）に学び、

後ペザロ音楽学校を卒業、仏、西、和、英各国で指揮者として活躍、沢山の作品がある。

多数の門下生を教育し、かのマリオ・バッチもその一人である。

オペレッタ、管弦楽、吹奏楽、ピアノ曲マンドリン合奏曲等、夥しい数にのぼるが、

斯楽では教則本を出版し、小編成の佳曲が多く一般著名曲歌劇の編曲も頗る多い。

1901年ボローニアで創刊された斯楽誌Vita Mandolinisticaの主幹を努めたこともあり、

作品は簡明で愛らしく本邦でも初期の頃は各地に愛奏された。

オペレッタには、「家庭での争ひ」「暗い部屋」「少年」「法螺吹き」「ジャングランデとジャンペーレ」

「道化師の策略」一幕のメロドラマに「孤児の少女」等があり、

ワルツ、セレナータに佳曲が多いが、特性的小品「夜の鐘」が最も有名。

本曲「シレーナの唄」は1905年フィレンツェのマウリから出版をみた作品109番のマズルカ。

シレーナはシチリア島に住み、海ゆく人々を其の美しい声等で迷わせると云う半人半魚の女神。

洋々たる青海原に姿を現し髪を梳るシレーナ。

唄声が優婉に漂えば波も之に和してさざめき踊る。

波とシレーナの楽しい対話が美しくマズルカに綴られてある。

1969年10月31日発行

イタリアのマンドリンアンサンブル佳曲百曲集第一集より